テーマ名：子ども考案のトレーニングで取り組みは強くなるか 。

園名：神田淡路町保育園

背景

相撲のルールや歴史、関わる人を理解したうえで「お相撲さんの強さがかっこいい。」という気持ちが強く芽生えた。「体が大きくて力があるから強いのか？」では「なぜ小さくても強い人がいるのか。」「強い理由を知りたい。」と子ども達から声が出るようになった。立浪部屋で見た朝稽古、YouTube、テレビ中継や絵本、雑誌で見たトレーニングの内容を見て子ども同士でどんなトレーニングが必要かを話し合った。すると「自分達もお相撲さんのように稽古して強くなってみたい。」という意思が強く芽生えた為、日々の活動の中で、相撲の取り組みを取り入れながらトレーニングについて探究活動を続けている。

2024年度実施内容のまとめ

実施

まずは、様々な相撲に触れてみる。
照ノ富士ってかっこいい。自分達も強くなりたい。

実施

観戦したり、グループワークを通して疑問点を話し様々なトレーニングを実践。

実施

自分の取り組み・力士の取り組みを見て振り返り、トレーニング実践を繰り返す。大人相手に押し込む練習を追加。

子どもたちの興味

① そもそも相撲ってなに？相撲という名前がついてる遊びも相撲なの？

③ 取り組みを行う相撲をしたい。「体が小さいのに勝てる人は何故なの？」という疑問から強い人どんなトレーニングをしてるのか気になるから調べてみたい。

⑤ 土俵際で踏ん張る力が必要だけど、体幹、柔軟性を身に着けるにはどうしたらいいの？

環境づくり

② 気になる相撲遊びが出来るよう製作物の提供。

④ 大きさの異なる力士同士の取り組みを観戦したり、稽古の様子から何が強くなるために必要か話し合い実践する場を提供。

⑥ 準備運動を見直し、実践する時間を設けた。また、トレーニング1つの動きのポイントをまとめ貼り出している。

2024年度振返り

ゴール
①様々な資料、研究材料を提供することで自然と子ども同士が話し合う機会が生まれた。子どもの興味に合わせた環境を整える事で毎日取り組みをしたいと提案が上がった。
②保育者は子どもの知りたいことに関し、材料や場所、研究する際のポイントを伝えるのみでトレーニングを行いその結果、取り組み自体も強くなっている。
③保育者が子どもに教えるではなく、子ども自身で考え行動している事で興味を示したことを調べ実践する力を引き出す事が可能。

次年度に向けて

①研究材料を多く提供し話し合いの時間を多く設け、その日の実践するようにしていくことで子ども自身での発見・疑問点を深めていけるのではないか。
②取り組みを多く取り入れていたが自園の子どものみでは、マンネリ化していた。他園交流を多く取り入れることで、更なる成長が出来ることが見込まれる。
③今後に向け、保育者は情報の提供のみで子ども同士で疑問点をどこまで深め、保育者に挑戦したいこと、環境を整えてほしいことを伝えられるのかに挑戦してみたい。また5歳児以外も巻き込める内容の活動を取り入れ、園全体で相撲を盛り上げる事で来年度以降にも相撲活動を受け継いでいきたい。